



# かなざわ森沢山の会 作業心得

## 間伐作業についての一般的注意事項(抜粋)

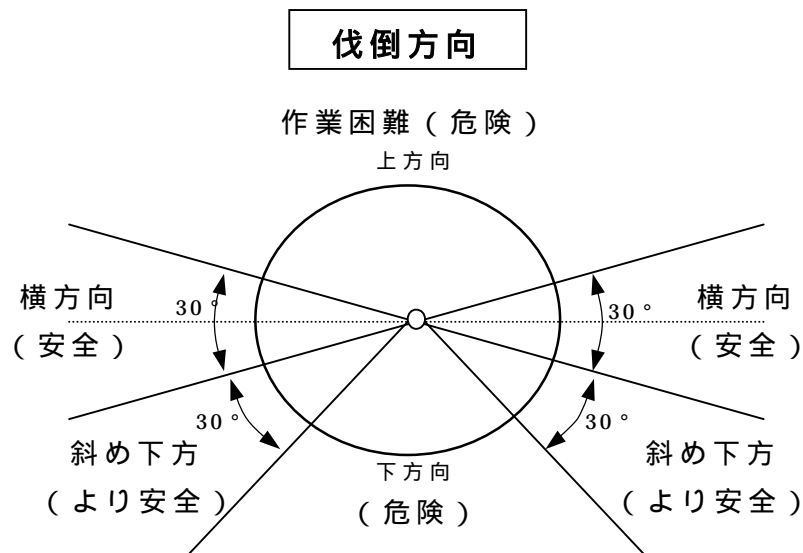
### 3. 安全作業

三大禁止事項『悪天候作業の禁止』、『上下作業の禁止』、『近接作業の禁止』

晴天作業時に『雷』が発生した時は、作業を中止し、作業用具を身体から離し、すみやかに安全な場所へ避難します

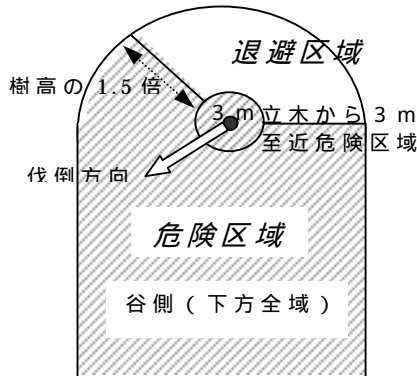
#### 3-2-1. 立木の伐倒

- 伐倒する立木の状態、隣接木の状況、地形、風向き、伐倒後の作業手順などを考慮して、安全にかつ確実に倒せる方向を選定することが大切です
- 伐倒する木から3メートル程度の周辺にある灌木・ツル・笹・浮石など、作業や退避に障害になるものを取り除きます。伐倒した時、接触してはね返るおそれがある立木や折れて飛来するおそれがある枯木などを処理しておきます
- 立木の重心の位置を判断します。隣接木との、枝がらみ・つるがらみ・伐倒方向線上の障害物・伐倒方向の変化・はね返りなどを判断して、伐倒方向を決めます
- 伐倒方向は基本的には下図のようになりますが、複雑な状況下では必ずしも希望通りにはならないので、習熟した人のアドバイスやサポートが不可欠です



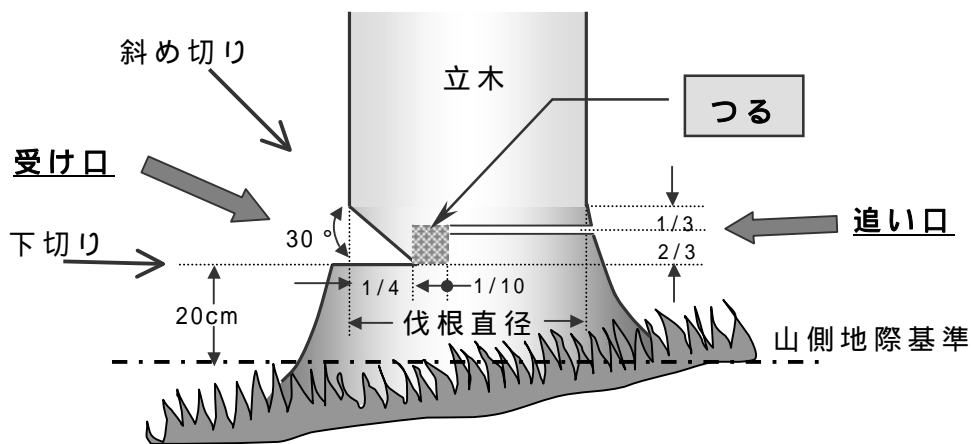
- 退避場所は伐倒方向の反対側の斜面上方で、3メートル以上離れた立木などのかけをあらかじめ選んでおきます。
- 伐倒による危険区域は下図のようになりますので、伐倒時、他の作業者にも大きな声で注意を喚起することも、重要な仕事の一部になります  
『安全第一で、周囲の安全確認を!』木を切る時には、大声で周囲へ知らせると共に、周囲の人が退避した事を必ず確認してから、作業を実施します

**退避区域と危険区域**

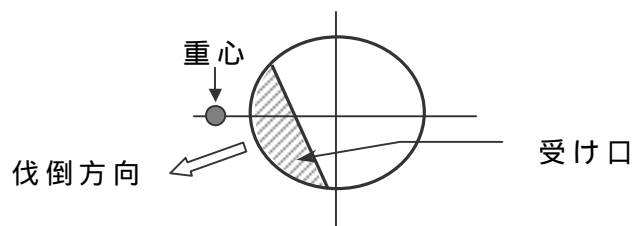


- 伐倒の準備ができたなら、山側の地際を基準として、根元から 20 ~ 30 センチ上の伐倒方向側に『受け口』を切ります。『受け口』の「下切り」の深さは、伐根直径の 3 分の 1 ~ 4 分の 1 程度水平に切りこみます。次に、「下切り」に対し 30 度 ~ 40 度の角度で「斜め切り」を入れます。注意する点は、「下切り」と「斜め切り」の終りの線 (支点) を一致させることです
- 『受け口』の位置や寸法は、森沢山の会として、下図のように取り決めていきますので、通常はこの方法で切り取るようにします

**受け口と追い口**

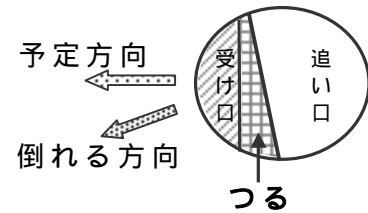


- 『追い口』は、『受け口』の真裏に上図のように、『受け口』の上からその高さの 3 分の 1 程度のところに、水平に切り込みを入れます。ノコギリの位置や方向が作業者に解りにくい場合は、共同作業者に見てもらいます
- 傾き木の『受け口』は重心線のある方向から左右いずれかの方向に伐倒方向をずらして作ります



- 『つる』の残し方が重要です。『つる』は、伐倒速度の調節や、根元の跳ね返り防止や、伐倒方向の微調整になりますので、一気に切り過ぎないように注意深く「追い口」を切り込みます

『つる』の左右のバランス（幅）が異なるとつるの切断の速度が左右で異なり、つるの切断の遅い方、即ち、つるの幅の広い方へ引かれて倒れます。図の予定方向へ倒す時はつるの左右の幅を均一にする必要があります



- 「かかり木」について；長年放置されたスギ・ヒノキなどの人工林や雑木林での伐倒作業では「かかり木」が多発します。「かかり木」の処理は、特に危険を伴いますので、習熟した人との協力作業が必須です

- ◆ してはいけない「かかり木」の処理

「かかられている木」の伐倒、投げ倒し・浴びせ倒し（隣接木を伐倒してかかり木に当てる）、元玉切り（かかり木を途中で切断）、かかられている木の枝打ち、肩でになってはすすなど

- ◆ 正しい「かかり木」の処理

小径木（直径20センチ未満）の「かかり木」は、棒・木回し・ロープなどを使って幹を回転させたり、元口をずらせたりして外します。大径木の「かかり木」は、安全な場所にケン引具（小型ウインチ）を置き、ロープと滑車を使って外します

- ◆ 発生した「かかり木」は、すぐに処理しましょう

放置した「かかり木」が思わぬ時に落下して危険です

- ◆ やむをえず「かかり木」から離れる時は

他の作業者が誤って近づかないように、あらかじめ打ち合わせておいた標識で表示をしておきます

## 5. おわりに

- ☀ ケガと弁当は自分持ち
- ☀ 作業は安全第一に楽しみながら  
腹八分目でやめましょう
- ☀ 森沢山の会は林業を目指す  
専門家集団ではありません
- ☀ 自分の能力の届く範囲をわきまえて  
決して無理をせずに
- ☀ せっかくの非日常的な時間と空間を  
大切にしてみんなで楽しみましょう

